

活動報告 4. プレ・インターンシップ活動報告

(1) プレ・インターンシップの概要紹介

就業力育成支援事業推進リーダー 小松啓子 教授

皆さん、こんにちは。本学でプレ・インターンシップを取り組もうとした経緯とプレ・インターンシップの概要をお話し、皆さん方の活動報告に繋がりたいと思います。

まず、本学では学生理解を深める目的で自己実現的態度について調査を行いました。入学時には「人間的に成長したい」、「生きがいのある生活を送りたい」、「本当に満足できる仕事に就きたい」という学生が多くを占めていました。大変驚いたのは、1年次には高いこれらの思いが学年を経るに従い、だんだん低下していたことです。学生理解をもっと深めることが重要ではないかと感じました。

本学にはボランティアサークルが多いことを踏まえて、平成20年度に本郷准教授を中心に本学生のボランティア活動について実態調査を行うことになりました。その結果、約70%の学生がボランティア活動を経験しているということがわかり、大変驚きました。さらに、活動していない学生のうち90%の学生が「機会があれば参加したい」という高い意欲を持っており、改めてボランティア活動に対する意識が高いことに感動しました。ところが、このボランティア活動経験から得られたことが、就職活動時のエントリーシートにあまり活用されていないことがわかりました。

最近、学生の就職率は大変厳しい状況にあります。学生の資質や能力向上に対する社会の要請や地域社会の変化を踏まえた就業への要請が高まる一方で、文科省は「大学生の就業力育成支援事業」を公募しました。そこで、本学で4年間にわたって取り組んできたことを活かし、「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」を考案し、文科省に提出し選定されました。そのプログラム内容は、就業力向上を軸に皆さんが活発に行っているボランティア活動を発展させ、そしてキャリア形成支援を個別に支援して

いくというプログラムです。

本学では、就業力を幅広い職業人としての職業開拓力及び社会的強み（社会貢献力）を兼ね備えている力と定義し、就業力の向上とは、目的意識を持って幅広い職業人になるための学習を継続・深化し、大学卒業後に役立つ、社会貢献できる実践的能力を獲得することと決めました。その中で、ベネッセが実施したアンケート調査を活用して本学生の就業力を構成する8つの力を抽出することができました。本学生は、「創造的思考力」「統合的学修力」「自己理解力」「コミュニケーション力」「ストレス耐性力」の5つが、残りの3つに比べて弱いことがわかりました。今の2年生も1年生もほとんど同じような結果が得られています。この5つを強化していく取り組みの一つとして、実学的専門教育科目を位置づけました。実学的専門教育科目には、社会貢献論、社会貢献論演習、両学部で学ぶ専門的連携科目、海外語学演習・実習等を位置づけました。これらの勉強を通して、その成果を社会貢献フォーラムIで発表し、準備や振り返り等の活動から就業力を構成する8つの力の向上を図ることができると推測しています。実際、平成23年度に社会貢献論を受講した学生について受講前後で比較してみると、創造的思考力、自己理解力が少し高くなり、中でも統合的学修力が有意に上昇するという結果が得られました。一方で、大学の中で学ぶことができない就業体験を1年生という早期から行うことが大切ではないかという考えで、産業界の現場を体験するプレ・インターンシップ活動を設けました。ボランティア活動を行っている学生の取り組みが、実はプレ・インターンシップに相当しているという理解も大切です。本事業は今年で2年目に入りましたが、ようやく学生の理解も深まったのではないかと感じています。プレ・インターンシップの主な目的は、1年生と

いう早期から、多様な社会の仕組みや人と人との繋がりを学んでもらうことです。大学1・2年生から産業界を体験することで、様々な価値観を持っている人たちがいるということに気づき、働くことへの意味や意義を早くから考え、自己理解を深めるだけでなく、他者理解も深めるということが大切です。学生が行っているボランティア活動が、実は就業力向上に繋がっているということに気付く機会になるよう支援しています。夏季にプレ・インターンシップを体験した学生の実績としては施設で62名、企業では25名、全体で87名でした。春季の活動に向けて、現在も多くの方が相談に来ています。是非活発に活用していただきたいと思います。また、活動を行う学生に対しては、すでに1・2年生に配布したマイキャリアポケットを活用して、プレ・インターンシップ活動の事前事後指導を積極的に行っています。学生の皆さんには、自分の就業力の強みや弱みを具体的に把握し、課題を持ってプレ・インターンシップに参画していただきたい。活動の成果をマイキャリアポケットに記載し、PDCAサイクルを活用して自己評価を試みることができる形式にしていますので是

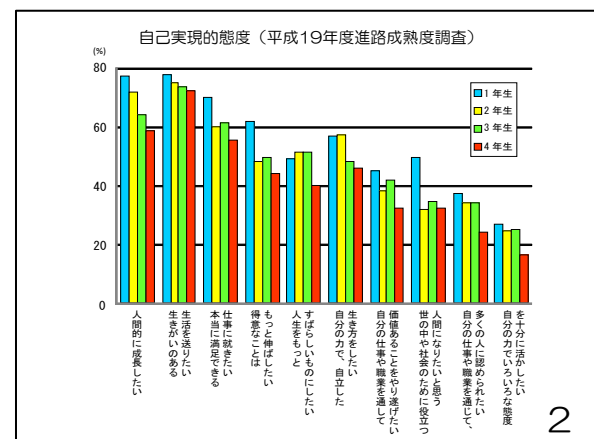
非活用していただきたいと思います。このノートを活用していく中で、各自の課題解決に向けた活動ができる仕組みづくりを身につけることができると思います。また、プレ・インターンシップや自主的な社会貢献活動での学びの成果を、これから社会貢献フォーラムⅡで発表していただくわけですが、これらを通して特に弱み部分である「ストレス耐性力」「自己理解力」「統合的学修力」の向上を図ることができます。最後になりますが、本学は学生の皆さんが社会に貢献できる人生を歩んでいけるよう、また雇用のミスマッチや早期離職を予防する策としても、このプレ・インターンシップでの就業体験が有効であると考えていますので、是非頑張って取り組んでいただきたいと思います。就業力育成支援事業は3月31日で終了しますが、次年度からは九州・沖縄の大学が連携して産業界のニーズに対応した学生支援を行っていくという方向に展開していきます。就業力育成のための学びと、実践活動を効果的に取り入れながら、本学生のさらなる就業力向上を教職員一丸となって目指していきますので、一緒に頑張ってください。

平成23年度社会貢献フォーラムⅠ・Ⅱ

プレ・インターンシップ 概要紹介

就業力向上支援プログラム推進会議
委員長 小松啓子

平成24年2月8日 福岡県立大学 1



学生理解を深める！

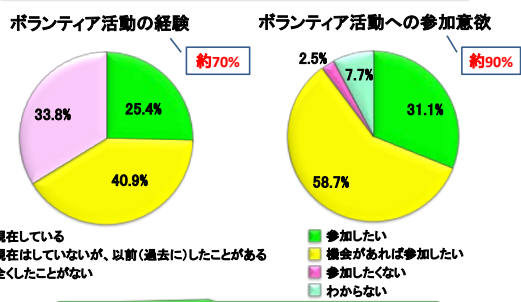
3

福岡県立大学生の ボランティア活動の実態調査

2008年度（平成20年度）実施
全学生 回収率71.1%

4

県大生の特徴（ボランティア意識）



ボランティア経験者が多く、ボランティア活動への意欲も高い！

5

田川元気再生プロジェクト「大学生ボランティア活動に関する実態調査」（平成20年11月実施全学生対象）

ボランティア活動に参加して「よかった」と感じたこと

- ・ 地域のために役立った
- ・ 楽しかった
- ・ 困っている人のために役にたった
- ・ 相手から感謝された
- ・ 人間性が豊かになった
- ・ 思いやりの心が深まった
- ・ 生活に充実感ができた
- ・ 友人や知人を得ることができた
- ・ 知識や技能が身についた
- ・ ものの見方、考え方が広がった
- ・ 学校で評価された
- ・ 福祉など社会の課題に対する理解が深まった

6

ボランティア活動経験



就職活動に
直結してない

7

文部科学省は、学生の就業率が厳しい中で、学生の資質能力の向上に対する社会からの要請や地域社会の変化を踏まえた就業への要請に応えるため、教育課程の内外を通じた社会的・職業自立に向けた指導を制度化し、平成22年に「大学生の就業力育成支援事業」を公募しました。

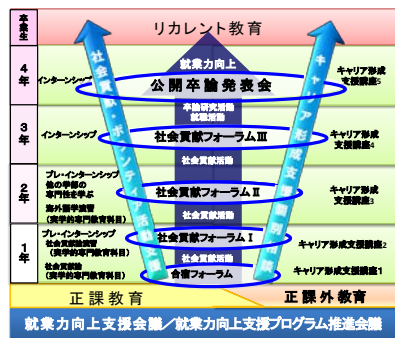
4年間にわたり準備してきました本学の「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が選定されました。

8

「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」
 ～初年次からリカレント教育まで質の高い幅広い職業人養成を行う～

9

就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム



10

就業力とは

幅広い職業人としての職業開拓力
 及び社会的強み(社会貢献力)を
 兼ね備えている力

11

就業力の向上とは

目的意識を持って、幅広い職業人になるための学修を継続・深化し、大学卒業後に役立つ、社会貢献できる実践的能力を獲得すること

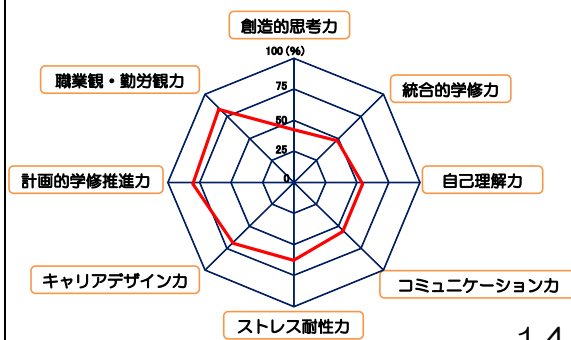
12

ボランティア活動の学びを就業力向上に活かしたい!

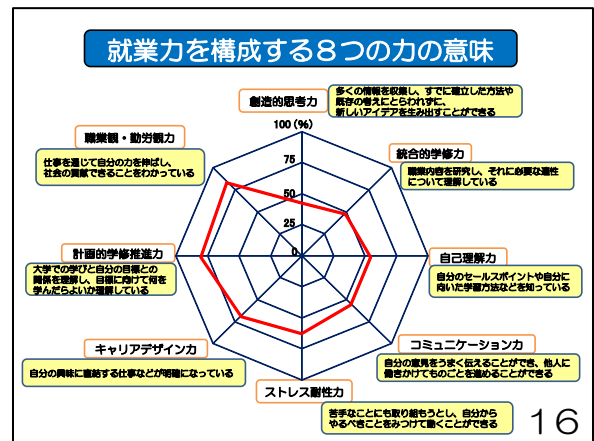
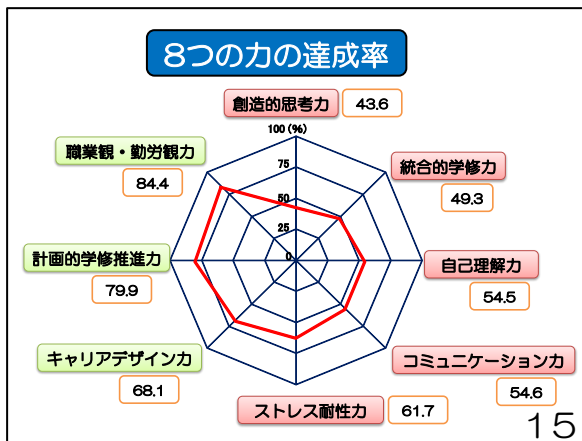
- ・ 地域のために役立った
- ・ 楽しかった
- ・ 困っている人のために役にたった
- ・ 相手から感謝された
- ・ 人間性が豊かになった
- ・ 思いやりの心が深まった
- ・ 生活に充実感ができた
- ・ 友人や知人を得ることができた
- ・ 知識や技能が身についた
- ・ ものの見方、考え方が広がった
- ・ 学校で評価された
- ・ 福祉など社会の課題に対する理解が深まった

13

本学生の就業力を構成する8つの力



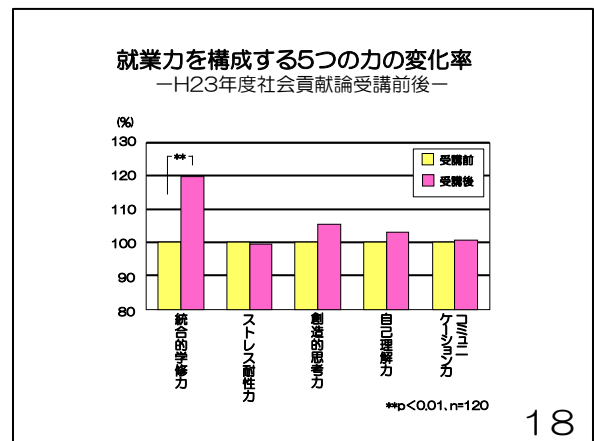
14



実学的専門教育科目の効果

1 実学的専門教育科目（「社会貢献論」「社会貢献論演習」）の成果を社会貢献フォーラムIで発表することにより、その準備や振り返りの活動を通して就業力を構成する8つの力のうち、特に「コミュニケーション力」「計画的学修推進力」「統合的学修力」「創造的思考力」「自己理解力」の向上を図ることができる。さらに、「両学部で学ぶ専門的連携科目」「海外語学演習」「海外語学実習」を通して、専門領域の実践現場におけるトピックについて理解を深め、「キャリアデザイン力」「職業観・勤労観力」「創造的思考力」の向上を図ることができる。

17



プレ・インターンシップ(就業体験)の目的

1年生という早期から、プレ・インターンシップ(就業体験)を通して、多様な社会の仕組みや人と人との繋がりを学び、働くことの意味を考え、自己理解と他者理解を深めること。

20

1年次からの就業体験による、就業力の向上

プレ・インターンシップでは、学生が行っているボランティア活動が、実は就業力向上につながっていることを気づく機会になるよう支援を推進する。学生は自分の就業力における強みや弱みを具体的に把握し、課題を持ってプレ・インターンシップに参画する。プレ・インターンシップでの就業体験を、学生の就業力向上に活かし、自ら産業界のニーズについて理解を深める。

21



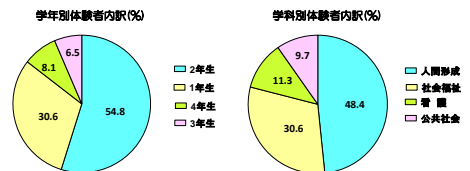
22

プレ・インターンシップ受入れ先一覧

領域・業種	件数	所在地	事業内容等
福祉	5	伊川市:4、久留米市:1	介護、デイケア
地域連携	3	伊川市:3	自立支援
知的障害者施設	9	田川市:4、小郡市:1、福岡市:1	自立支援
児童	1	田川市:1	自立支援
自治体	11	田川市:9、福岡市:2	美術館、病院、保育所、車椅子、公的機関
教育機関	6	田川市:5、嘉穂市:1	小学校
NPO	5	北九州市:1、田川市:2、福岡市:1	ボランティア組織
団体	9	北九州市:1、田川市:3、春日市:2	各種団体・組織
行徳市	1	行徳市:1	高齢、高齢者
医療業	7	田川市:1、田川市:2、飯塚市:4	病院、薬局
運輸業	1	福岡市:1	郵便局
卸小売業	11	田川市:1、北九州市:2、福岡市:2、筑紫郡:1	食品、日用品、教材の卸小売業
飲食業	1	飯塚市:1	コミュニティ
サービス業	3	福岡県内:1、田川市:1、筑紫郡:1	リネンサプライ、弁当販売
情報通信業	2	伊川市:1、飯塚市:1	ソフトウェア開発
スポーツ事業	1	北九州市:1	スポーツ事業
田川市	1	田川市:1	教育機関、美術館、コンクリート製造等
製造業	8	福岡市:3、北九州市:2	印刷業
不動産業	1	春日市:1	不動産
ホテル業	4	京都府:1、飯塚市:1、福岡市:2	ホテル業
旅行業	1	高崎市:1	観光紹介
合計	89		

23

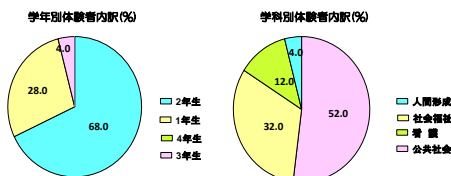
施設等でのプレ・インターンシップの実績



体験学生数
62人

24

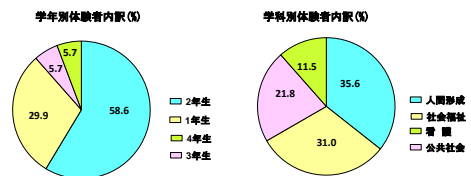
企業でのプレ・インターンシップの実績



体験学生数
25人

25

平成23年度前期プレ・インターンシップの実績



体験学生数
87人

26

マイキャリポケットの効果

- 2 学生に対して、プレ・インターンシップ活動の事前事後指導を積極的に行う。学生は、活動の成果をマイキャリポケット（社会貢献活動記録帳）に記載し、その効果についてPDCAサイクルを活用して自己評価を試みることで、キャリア形成における各自の課題を明確にすることができる。また、各自の課題解決に向けた活動ができる仕組みづくりを身につけることができる。

27

プレ・インターンシップの効果

- 3 プレ・インターンシップや自主的な社会貢献活動での学びの成果を、社会貢献フォーラムⅡで発表することにより、特に、「ストレス耐性力」「自己理解力」「統合的学修力」の向上を図ることができる。また、来年度以降の合宿フォーラムや社会貢献フォーラム等の企画を検討し、実施に向けて準備を進めることができる。

28

1・2年生のみなさんへ

社会での人と人とのつながりや働くことの意義などをプレ・インターンシップを通して体験してみましょう。社会貢献・ボランティア支援センターでは、受入れ産業界との事前調整など、みなさんをサポートします。

まずは、社会貢献・ボランティア支援センターに相談に行きましょう！

29

社会に貢献できるリーダーの育成

学生が社会に貢献できる人生を歩んでいけるよう、また雇用のミスマッチや早期離職を予防する策としても、このプレ・インターンシップでの就業体験が有効となる。



※就業力とは、幅広い職業人としての職業開拓力、及び社会的強み（社会貢献力）を兼ね備えている力

就業力を構成する8つの力

30

本プログラムはスタートしたばかりです。就業力育成のための学びと実践活動を効果的に取り入れながら本学学生の、さらなる就業力向上を目指したい！



活動報告 4. プレ・インターンシップ活動報告

(2) プレ・インターンシップを通して産業界を体験した学生によるスピーチ

1) 小高綾野 (社会福祉学科3年)

活動先：北九州市手をつなぐ育成会、
福岡県脊髄損傷者連合会

私は、八幡市民会館で行われた福岡・江蘇・韓国障害者交流大会と脊髄損傷者相談会での体験について発表したいと思います。まず、私が福岡・江蘇・韓国障害者大会に運営支援として参加した理由としては、今まで実習等で高齢者の方々とは関わることがありましたが、障がい者の方とはあまり関わる機会がなかったので、今回一緒に何かに取り組んでみたいと思ったからです。初めは私自身も緊張している部分もありましたが、職員の方のアドバイス等もあり、次第に上手くコミュニケーションが取れるようになりました。私が話しかけると嬉しそうに話して下さったり、積極的に私に声をかけて下さったりして、障がい者の方とのコミュニケーションの楽しさを実感することができました。舞台準備も障がい者の方はきちんと覚えておられ、私にも色々手順を教えて下さいました。また、舞台発表では自信を持って堂々と発表されていたのが印象的で、私にはとてもできないようなことを自信を持ってされていました。障がいがあっても充実し、楽しく生活されているのだということを感じ、障がい者の方からとても多くのことを学ばせていただいた良い機会となりました。また、今回は3か国の交流大会ということで、日中韓のそれぞれのステージ発表を観る機会がありました。各国の文化が発表に表れており、3か国の文化の違いと良さを障がい者の方々から学ぶことができたということも、私にとってとても良い経験となりました。今回のプレ・インターンシップへの参加により、障がい者とのコミュニケーションや一緒にステージを作り上げることの楽しさを感じることができたのと同時に、その責任感も感じることもできました。

また、福岡県脊髄損傷者連合会では、直方の

イオンモールで行われた相談会の支援を行いました。実際に車椅子で生活されている方のお話を聴くことができ、実際の悩みや車椅子で生活する中でのバリアフリーの大切さ、地域に“相談できる場”があるということの重要性を改めて感じることができました。

2) 新山順子 (公共社会学科3年)

活動先：子鳩保育園

私は公共社会学科に所属しているのですが、保育にとっても興味があり、将来子どもと関わる仕事に就きたいと思っています。そこで、保育士の資格を取得するため、一昨年の冬から試験勉強を始めました。しかし、この試験では、残念ながら実践的な体験をすることはできません。そこで、保育士を目指すにあたり、保育園では実際にどんな活動をし、どんな保育をしているのか、肌で体感したいと思うようになりました。今回、ボランティアという形ではありますが、保育園で勉強をさせてもらえることになりました。私は、今年の1月から毎週金曜日の午前中、田川市の伊加利子鳩保育園でボランティアをしています。保育園には、0歳児から5歳児まで全ての年齢で保育を手伝わせていただいています。朝は登園してくる園児と一緒に自由遊びをして、朝礼の時間では3歳から5歳までの園児が集まって大きな声で挨拶や歌を歌います。子鳩保育園では、年齢別保育や縦割り保育を組み合わせしており、私にとって全てが初めての体験であるため、本当に勉強になります。また、子鳩保育園では行事を豊富に行っており、年に一度の大きなイベントである「表現あそび発表会」も今月行われました。発表会では、子どもたちが一生懸命練習してきたお遊戯を田川青少年ホールで披露します。私は衣装の着替えや荷物の搬入等を手伝う中で、子どもたちが立派に舞台上に立つまでに先生方のたくさんの苦勞があることを知りました。このように、金曜日以外にも行

事には積極的に参加し、たくさん子どもたちと関わりを持ちたいと思っています。また、同時に子どもたちとの関わり方や保育の方法等、現場でしか学べないことをたくさん吸収したいと思っています。

3) 新宅智子 (社会福祉学科2年)

活動先：田川市教育委員会 (鎮西小学校)

私は、2年の短期実習の時に全くボランティア経験をしておらず、実際、子どもたちとどう接したらいいのかわからなかったのも、鎮西小学校に3回、TA(ティーチングアシスタント)として小学校1年生のクラスに参加しました。最初は何をしたいのかわからず、気を張ってばかりで、小学生たちの相手をする時に、自分ばかりがソワソワしていましたが、1年生たちに助けられ、たくさんのことを学びました。視線のとり方や話のスピードを一人ひとりの子どもに合わせていくことの大切さや、大人という先生と、小学生という子どもたちの間に立って色々なことを話すことで、自分が何をしたらいいのかということも学びました。実際、実習の時も子どもたちと話すのも楽になり、この小学校で学んだ多くのことが、実習の中でも活かされたと思います。リアルなやり取りの中でたくさんのことを学び、小学生たちにたくさんを教えてもらい、将来に対する展望が開けたような気がします。

4) 馬場朝子 (看護学科2年)

活動先：田川市教育委員会 (金川小学校)

日本二分脊椎症協会北九州支部

私は今回、金川小学校でのティーチングアシスタントと、二分脊椎症協会の1泊2日のキャンプのボランティアについて話をさせていただきます。まず、金川小学校でのティーチングアシスタントの活動を話します。ティーチングアシスタントとは名前の通り、学校の先生のサポートを行います。私は、週1回参加をしました。大学の授業の関係で、朝から給食の時間までの参加でした。主な活動の内容としては、授業と一緒に受けながら、勉強を教えたり、赤ペンを持ってまる付けをしたり、体育の授業では、私の時はプールの授業だったのですが、一緒にプールに入って、授業を受けたり、遠足では一緒に

に県立大学に行ってグラウンドでご飯を食べたり、学校外活動にも参加をさせていただきました。時には、給食後の掃除を一緒に行ったり、様々な触れ合いをさせていただきました。参加するきっかけは、私は子どもと関わることがとても好きで、学校関係に就職できたらいいなと思っているので、先輩に紹介していただき、始めることとなりました。参加するにあたり、朝はとても早いですし、金川小学校まで自転車で20分ほどかかるのできつい面もありましたが、小学校に着き、子どもたちと触れ合っていくうちに、疲れも忘れて活動していたことが印象に残っています。学んだこととして一番は、やはり怒ることの難しさを感じたことです。最初はコミュニケーションを取ることで精一杯だったのですが、子どもたちと慣れて触れ合っていくうちに、怒らなくてはいけな場面がいくつか出てきました。そこでの接し方にとっても迷ったことがありました。私は将来、養護教諭になりたいと考えています。その中で、教職の内容を学ぶにあたって、この活動を経験したことは大変大きなことだと感じています。

二つ目は、1泊2日の二分脊椎症協会のボランティアについて話したいと思います。活動内容としては、二分脊椎症の子ども一人に対し、二人から四人のボランティア学生が付き、1泊2日を共に過ごします。その中で行うこととしては、排泄介助、食事介助、移動介助、入浴介助。親御さんたちは全て、私たちボランティアの学生に任せてくれます。看護の実習で実際に病気を持った患者さんを担当したことはありましたが、実際にここまで任されたことはなかったので、戸惑う部分もたくさんありました。しかし、二分脊椎症は先天性の病気が主なので、子どもたちは「自分の体は生まれた時からこういう体なんだ」とわかっていて、自分でできることが多く、ボランティアさんに何をしてもらおうのか、自分たちから伝えてくれます。私たちは介助をするのですが、ほとんど教えてもらって介助をするという形なので、私たちの方が学ぶことが多かったように感じます。以上のように、プレ・インターンシップの活動を通して様々なことを学ぶことができました。将来を考えるにあたって、貴重な体験だったと思います。最後に、こちらに紹介するのは、1年から2年にかけて担

当した子どもたちにもらった寄せ書きです。皆さんも参加されたら、このような感動的なものがいただけます。

5) 山本綾香 (社会福祉学科2年)

活動先：(株) ギラヴァンツ北九州

私は夏季休暇を利用して、ギラヴァンツ北九州でプレ・インターンシップに参加しました。ギラヴァンツ北九州での体験を希望した理由は、スポーツ企業に興味があったということと、私の地元でもある北九州を拠点として活動しており、サッカーの試合だけでなく様々な社会貢献活動を行っていることを知ったからです。体験内容では大きく二つの業務に分けられました。一つは、試合開催にあたっての業務です。ホームグラウンドである本城陸上競技場において、前日の準備から始まりました。ここでは試合当日の業務がスムーズに行えるよう、多くのスタッフが手分けして会場設営を行いました。そして試合当日、私はイベントテントの配属となりました。小さな子どもや多くの人に関心を持ってもらい、サポーターを楽しませるような活動が試合前から試合後まで行われていました。普段私たちが何気なく楽しんでいるイベントが、このようなスタッフの努力により行われているのだと感じました。そして、もう一つは本社オフィスでの業務です。ここでは、主に広報の仕事に携わりました。試合の取材に來られていた報道社の把握、報道社との連絡や入場チケットの半券整理、商店街での広報活動です。特に広報活動では一軒一軒お店を訪問し、ポスターを貼らせていただけるように依頼しました。プレイヤーが注目される中で、サッカーチームを成り立たせるためには、こんなにも多くのスタッフが陰で努力し、支えているのだと改めて感じました。短い間でしたが、ギラヴァンツ北九州でのプレ・インターンシップを体験し、普段私たちが想像していなかった活動があることを知り、それらを学ぶことができ、よい経験ができました。この経験をこれからの学生生活でも活かしていきたいと思います。

6) 吉松由実 (社会福祉学科2年)

活動先：北九州市障害福祉ボランティア協会
私は、昨年の8月、北九州市内の特別支援学

校PTA主催のサマースクールに2日間のボランティアに行きました。動機は、ボランティアをしたかったことと、障がいを持った方と関わったことがあまりなかったので、将来の自分のためにもなると思ったことです。自分の担当する子どもが決められていて、1日目は一緒にピザ作りをし、2日目はバスでマリワールドに行きました。私の担当した子どもは、重い障がいを抱えているようではなく、障がい児ということを特に意識せずピザ作りをしたり遊んだりしました。マリワールドでボランティアを担当した子どもは自閉症だったのですが、コミュニケーションをとるのが少し難しかったこと以外は障がいのない子どもとの違いはほとんど感じられませんでした。ただ、2人ともお母さんと一緒にいたがっていて、お母さんの姿が見えなくなるとお母さんの姿を探したり、「お母さんは？」と聞いてきたりして、保護者の方は夏休みは本当に大変なのだろうな、とボランティアをしていて思いました。今回のボランティアで感じたことは、知的障がいを持っている子どもは持っていない子どもと全く違わないとは言えませんが、障がいを持っていない子どもと接する時も落ち着きがなく大変だったり、何を考えているかわからなかったりするので、障がいについて理解しておけば、接する時に身構える必要はないということです。逆に私の方が2日間楽しませてもらい、良い経験になりました。

7) 内山美佑貴 (社会福祉学科2年)

活動先：(株) 久原本家

私は、粕屋郡にある久原本家というキャベツのうまたれを作っている会社の4日間のプレ・インターンシップに参加しました。夏休みを利用して何かできないかと考えていた時に、一般企業のプレ・インターンシップ申込み受付のことを知りました。それをきっかけに就業力向上支援室へ行き、プレ・インターンシップについて詳しく話を聞きました。相談する中で、福祉では体験できない接客業を学びたいという思いに気づき、希望の日程等を伝え、受入れ先企業とのマッチングをしていただきました。プレ・インターンシップの初日は緊張しましたが、一緒に仕事をした方々がとても良い方ばかりで、いい雰囲気の中で活動ができたので、すぐに気

が楽になりました。慣れてくると自分から仕事を探したり、お客様の様子を伺ったりすることができて、楽しくなりました。指導をして下さった社員の方から、業務の流れや商品の説明、会社が大切にしているこだわりの説明を受け、消費者のことを本当によく考えられていることがわかりました。そして、商品の良さに負けない接客を目標に、身だしなみや挨拶、心配り等を大切にしていることを知りました。消費者のことを一番に考えるということは、業種は違っても福祉の現場でも利用者のことを一番に考えるということと同じなのかもしれないと思いました。今回のプレ・インターンシップで、たくさんの人との出会いがありました。様々な貴重な経験もできました。私の今後の大学生活や、アルバイトへの取り組み方も変わるくらいの刺激がありました。プレ・インターンシップを利用して、多くの人にこのような体験をしてほしいです。

8) 山口佳織 (看護学科2年)

活動先：田川市教育委員会
(鎮西・大藪小学校)

私は今回、1年の前期に鎮西小学校で主に1・2年生を、2年生の後期に大藪小学校で主に5年生を受け持たせていただき、ティーチングアシスタントとして先生のお手伝いをさせていただきました。活動内容としては、授業の中で子どもたちに勉強を教えたり、採点やまる付けをしたり、一緒に給食を食べたり、休み時間には一緒に遊んだりしました。このティーチングアシスタントをしようと思った理由は、私は子どもが大好きで子どもと接するボランティアを大学でしたいと思っていたこと、また養護教諭になりたいので働いたらどのような感じなのか、子どもとの接し方、コミュニケーションの取り方を実際に学びたいと思ったからです。私はこのボランティアを通して、コミュニケーションの取り方の難しさ、注意をする時、褒める時の言葉のかけ方を学びました。コミュニケーションを取るために私は、みんなに声をかけることを心がけました。すぐにコミュニケーションを取れる子どももいれば、やはりなかなかコミュニケーションの取れない子どももいました。そのような時は、他の子どもに「あの子だけ」と

思われないように、他の子どもにも目を向けながら気を付けながら、こまめに声をかけるようにしました。すると、少しずつですが、コミュニケーションが取れるようになりました。やはりコミュニケーションを取るためには、信頼関係がとても大切であり、ゆっくり時間をかけ、その子どものことを思って接して行くことが一番大事だと感じました。どのようにすればもっと子どもと上手くコミュニケーションが取れるようになるのか、これからの大学生活で学んでいきたいと思いました。また、悪いことをした時に、どのように注意をしたらいいのか、ただ怒っても信頼関係が築かれていないと言うことをきいてくれないし逆効果なので、一番に信頼関係を築き、相手のことを思って注意することが大切であると思いました。また、注意するだけでなく、注意した後はその子どもの良いところを褒めることも大切だと思いました。今回、このティーチングアシスタントでとても貴重な体験をさせていただきました。この経験を学校生活、将来に活かしていきたいと思いました。

9) 姫井好美 (公共社会学科2年)

活動先：太陽セランド株式会社
(株) ジェイエーシートレーディング

私は、夏季休暇中に2社の企業でプレ・インターンシップを体験しました。まず、8月にショップで洋服の販売業務を体験しました。5日間の中で、接客、服のお包み、検品、マネキンの着せ替え、売上げのチェック等を行いました。販売は初めてだったので、どう接客したらいいのかわからずに最初は戸惑いましたが、自分の対応でお客様が商品を購入された時はとても嬉しかったです。この体験の中で、「人と接する時に大切なこととは何か」を考えることができました。初めて接する人とのコミュニケーションの取り方や、空間の雰囲気作りを学びました。そして、9月に入ってから田川市の企業で5日間事務の仕事を体験させていただきました。郵便物を整理したり、パソコンにデータを打ち込んだり、初めてデスクワークを体験しました。一つの作業に集中して仕事ができるので、あっという間に時間が過ぎました。また、商品の売り出し方について話し合う企画会議にも参加さ

せていただきました。自分達で考えて、それを形にする場に参加できたことは、貴重な体験となりました。社員さんとお話をする場もあり、普段あまり話すことがない年齢の人達と関わった点も、このプレ・インターンシップの良い点だと思います。私は、将来の夢がまだこれと言ってありません。だから、最初はどんなところに行けばいいのかもわからなかったし、あまり行く気もありませんでした。しかし、就業力向上支援室の方に説明を受け、色々なアドバイスをいただいて、今回のような経験をする事ができました。実際にその職場に行ってみて、初めて自分の向き不向きがわかることもあるのだと感じました。行く前は初めてのことで不安もありましたが、今はプレ・インターンシップに参加して良かったと思っていますし、親身に相談に乗っていただいた就業力向上支援室の方にも本当に感謝しています。私のように将来がはっきりと決まっていな人にも、是非参加してほしいです。将来について考える良い機会になると思います。

10) 内場友香 (社会福祉学科1年)

活動先：福岡県社会福祉協議会

福岡県留学生サポートセンター

私は、この一年間で、二つのプレ・インターンシップに参加させていただきました。一つ目は、11月19日に飯塚コスモスコモンで開催された、ねんりんスポーツ文化祭のイベント補助のプレ・インターンシップです。そして二つ目が、先週の2月21日から25日の5日間、福岡県留学生サポートセンターでのプレ・インターンシップです。今回は、県立大にとって初めてのプレ・インターンシップ受け入れ先に1年生で一人での参加ということで、不安や緊張も大きかったのですが、本当に多くのことを学ぶことができました。活動させていただいた福岡県留学生サポートセンターは、留学生の就職、アルバイト支援事業、生活相談事業、交流促進事業等を展開されており、相談に来る留学生一人ひとりに多言語で丁寧な対応をとっておられ、皆さん優しく接して下さいました。私が主に体験させていただいたことは、電話の応対、窓口応対、来客者へのお茶出し等です。その他にも、イベントに参加させていただいたり、休憩時に

様々なお話を聴くことができたりと、普段の生活やアルバイトでは経験できない、職場の環境や社会の仕組み等を肌で感じることができ、大変貴重な社会勉強になったように思います。また、留学生サポートセンターという名の通り、毎日多くの留学生がセンターを訪れていました。中国、韓国、ベトナム、ネパール、オーストラリア等、世界各国の同年代の留学生と触れ合うことができたことは、良い刺激となりました。自国のことだけでなく、グローバルな視点で学問に取り組んでいる彼らの姿は見習うべきところだと感じました。5日間という大変短い期間ではありましたが、多くのことを体験させていただく中で、自分の考えや物の見方が変化したように思い、本当に参加できて良かったなと思っています。今後も、このような機会を是非活用させていただき、普段の生活では体験できないことや、大学生活の今しか体験できないことを多く経験し、自分の成長の糧にしていきたいと考えています。

<発表を行った学生の皆さん>



社会福祉学科3年
小高綾野さん



公共社会学科3年
新山順子さん



社会福祉学科2年
新宅智子さん



看護学科2年
馬場朝子さん



社会福祉学科2年
山本綾香さん



社会福祉学科2年
吉松由実さん



社会福祉学科2年
内山美佑貴さん



看護学科2年
山口佳織さん



公共社会学科2年
姫井好美さん



社会福祉学科1年
内場友香さん

活動報告 5. ボランティアサークル活動報告

(1) つくしんぼ

発表者 永井友幸(部長) 平田慎一郎(副部長)

活動分野：障がい児の余暇支援活動

部員数：30名

活動日：ミーティング 毎週木曜日 18:30～ 3203 教室



目的：保護者や子どもたちが、安心して楽しい活動ができるよう、学生自ら企画・準備を行い、楽しんでもらえる会(例会)を作り、交流することを目的としているサークルです。

歴史：このつくしんぼサークルはもともと、田川市の社会福祉協議会と障がいを持つ子どもの保護者の方々とつくった余暇支援を行う団体でした。そこに、学生のボランティアが集まり、次第に今のように学生が主体となって活動を行うようになりました。今では、30年以上も続いている歴史のあるサークルです。

活動内容：主に知的障がいを持つ子どもや兄妹児と一緒にゲームや物づくりをして過ごしています。また、地域の施設が主催する行事や募金活動等にも参加し、広くボランティア活動を行っています。学内での活動は、毎週木曜日の放課後に教室を借りて、例会や行事の話し合い・準備を行っています。部員は福祉学科に限らず人間形成学科、公共社会学科と様々な学科から集まっているため、多角的な視点から活動の内容を深めていくことができます。つくしんぼの活動の中心である、子どもたちを招待しての例会には、その季節に合ったイベント等をベースにして組立てていくことが多いです。例えば、去年は豆まきや流しそうめん、クリスマス

会等を企画しました。また、その他にも、外で身体を動かしたり、おやつを作って食べたり、工作をしたり等、子どもたちも保護者も学生自身も楽しめるように工夫を凝らして計画を立てています。また、例会以外の地域の活動にも精力的に参加をさせていただいています。特に田川市の社会福祉協議会と一緒に活動をさせていただくことが多く、昨年も6月に行われた100人規模で行われるフレンドシップツアー、下関への日帰り旅行をはじめ、募金活動・福祉まつり等にも参加しました。また、毎年8月に行われるつくしんぼキャンプは、つくしんぼがかなり力を入れている行事でもあります。つくしんぼキャンプとは、学生が主体となり、障がいのある子どもたちや地域の子供たちを招待し、一緒に活動する2泊3日のレクリエーションキャンプです。学生たちは夏休みを利用して、キャンプで行うレクリエーションや劇の準備をしたり、キャンプ全体の流れを確認したりします。キャンプの後には、毎年泣いてしまう人がいるほど達成感があります。他にも9月、10月には地域の施設等が主催するお祭りに、ボランティアとして参加します。主にお祭りの準備や出店、運営の手伝い、施設の利用者さんと一緒にお祭りを楽しむといったことをしています。

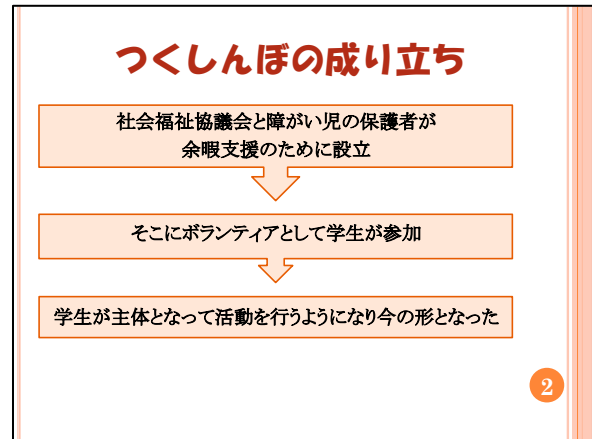


定例会の様子

部員名

福本雅巳、野村勇輔、小野嘉子、岡崎圭、北里成美、品矢紀代子、古島慎太郎、村手友美、山根理恵子、小林留理子、伊藤彩、緒方詩織、小野薫子、藤澤幸恵、永井友幸、平田慎一郎、

蛭原真琴、大村和輝、上ノ堀知美、大本梓織、林里奈、松尾和将、門脇和宏、河津雅、古村千愛、下川園美、玉野宏幸、続木奈美、浜田悠乃、他1名



つくしんぼとは？

- 対象
障がい児とその兄弟児
- 目的
保護者や子どもたちに安心して楽しんでもらえるような企画を立て、交流すること
- 部員数
公共社会学科 4名 人間形成学科 4名
社会福祉学科 22名 計 30名

3

つくしんぼの年間計画

- 4月 あすなろ運動会
- 5月 新歓 例会
- 6月 フレンドシップツアー
- 7月 例会
- 8月 つくしんぼキャンプ
- 9月 つくし市
- 10月 福祉まつり
- 11月 学祭
- 12月 例会(クリスマス会) 追いコン
- 1月 例会
- 2月 例会 お疲れ様会
- 毎週木曜日: 定例会
- その他募金活動の手伝いなど

4

あすなろ運動会

障がいのある人もない人も一緒に汗を流します。
工夫次第で老若男女誰もが楽しく運動できます。

5

定例会

- 子どもたちが楽しめる遊び
- ゲームの道具作り
- 障がいや身体能力等の情報を事前に把握
- 情報を学生同士で共有
- 危険予測する

会議中

6

例会



子どもたちを招待し一緒に遊びます。



- みんなで子どもの体調など細かな変化に気づく
- みんなで安心して楽しく活動できるようにする
- 保護者の方とのコミュニケーション

7

フレンドシップツアー

フレンドシップツアーとは、障がいがあることにより外出することが困難な方々とボランティアによる日帰り列車の旅の事です。

駅の階段や道路の通行の練習を学内で指導を受けながら練習しました。



8

フレンドシップツアー ～門司港レトロへの旅～

気づいたこと

- 車椅子での移動の困難さ
- 様々な制度を身を持って体験



9

つくしんぼキャンプ

社会福祉協議会が主催する、小学生から高校生までの一般の子どもや障がい児たちを対象とした二泊三日のキャンプです。学生が夏休みに集まり、二週間以上かけてキャンプの準備をします。



- 例会での知識や経験を活かす
- 周りの状況を把握する
- 自らの役割を果たす



10

キャンプを通じて感じたこと

- 限られた時間、人数の中で子どもたちを楽しませられるものを作ることの大変さ
- 自分に出来ることを理解する
- 担当の子ども、班だけではなく全体を見るために広い視野を持つ



大変ですがとても充実した時間を過ごすことができます！

11

まとめ

- 子どもたち、仲間との信頼関係を築く
- 多角的な見方を身につける
- 障がいやそれらを取り巻く環境と向き合うことの意味を知る

12

今後の課題

- 子どもたちや仲間との信頼関係の構築する
- サークル内・外での報告、連絡、相談の徹底をする
- 障がいに関する知識、理解を話し合いや体験を通して深める

13

ご清聴ありがとうございました。



14

活動報告 5. ボランティアサークル活動報告

(2) けんけつっち

発表者 中田友佳里 (部長)、堤美久、柴田優佳

活動分野：献血推進

部員数：10名



目的：献血推進サークル『けんけつっち』は、若年層を中心とした献血離れをなくし、より多くの方に献血のことを知っていただき、「安全な血液の安定した供給」を目的として活動しています。

活動内容：北九州学生献血推進連盟という団体に所属し、日本赤十字の北九州血液センター・他大学と協力して北九州を中心に活動しています。主な活動内容は、年に2回行われる街頭献血と、県立大学内での献血の企画・運営です。イベントの宣伝活動はもちろん、協賛・事前準備・当日の運営等を献血センターの職員の監修のもと、学生主体で協力し合って活動しています。また毎月1回、各大学の代表者が集まり、定例会を行っています。各大学と協力し合う活動の中で、たくさんの人との出会いにも恵まれ、切磋琢磨することができています。手術や血液製剤を作るために必要な血液は、全て献血によって賄われています。現在の技術では、血液を人工的に作ることはできません。その上、血液には有効期間が定まっており、長期間保存できるものでもありません。若年層の献血離れ

も進み、血液は慢性的に不足している状態が続いています。『一人でも多くの献血者を増やすことで、輸血が必要な方にいつでも血液が届くように』と若年層への献血の啓発、健康増進の周知、骨髄バンクの紹介もしています。

今年度は、私たちのこれまでのサークル活動を評価していただき、献血推進サークル『けんけつっち』が『学生ボランティア団体助成事業』に採択されました。社会貢献や社会参画の意義を改めて実感しております。このことは、今後の私たちの活動の幅を広げてくれることになると思い、感謝しています。現状の問題点としては、献血者の不足はもちろんですが、献血を広めていくために必要なメンバーも、県立大学に限らず年々減少の一途を辿っていることがあげられます。部員みんなで基礎知識を学び、知恵やアイデアを出し合い、私たち若者自身の力で啓発し、意義のある社会貢献に繋がる活動を行っていきたいと考えています。学生がこのような活動をしていくことによって、同じ若年層の方の興味を引き、また献血に対するイメージを良くしていきたいと願っています。

部員名

中田友佳里 (部長)、小竹智子、伊計柁哉、近藤大輝、宮路貴志、本田志帆、堤美久、柴田優佳、

善生あやめ、黒岩美帆

献血推進サークル「けんけつっち」



1

「けんけつっち」について

若年層の献血離れによる血液不足



わたしたちにできることを
やろうと発足



2

北九州学生献血推進連盟

6大学が加盟

(九州工業大学・九州女子大学・西南女学院大学・西工日本工業大学・九州国際大学・福岡県立大学)

若年層への献血の啓発を目指す！

3

年間の活動内容

4

1月 学内献血

受付 91名
採血 53名
昨年度より増加！



5

2月 成分献血ツアー開催

- ・昨年度初の試み
- ・参加者を募り
直接血液センターへ



5月 博多どんたく



・博多の街を練り歩き！

6

7月 学内献血

受付 94名

採血 63名



8月 サマーキャンペーン開催
愛の献血フェスティバルIN佐賀

7

12月 クリスマスキャンペーン



8



9

ここでクイズです(^o^)/

10

Q. もっとも長く保存できるのは？

①赤血球
21日間

②白血球
3~4日間

③血漿
1年間

④血小板
3日間



11

血液は生きた細胞

~~長期保存~~

血液の安定した供給のため
1人でも多くの献血者を増やす！

12

おわりに

13

学生ボランティア団体授賞式
財団法人「学生サポートセンター」
「学生ボランティア団体助成事業」
に採択



助成金をいただきました！

14

受賞したことで...

- けんけつちの活動が評価されたということ
- 今後の活動の幅を広げてくれるきっかけ

今後もより一層
献血推進活動に
勤しんでいきます！

15

ご静聴ありがとう
ございます♡



16

講評

<中村晋介 准教授>

私は、主に社会貢献論演習についてお話しいたします。社会貢献論演習で、皆さんがとても熱心に活動されたことを、まずは高く評価します。1年生のうちから、アンケート調査を企画・実施することの大変さ、さらには、集計・分析の大変さを、実際に体験できたことは、貴重なことだと思います。ただし、アンケートを使わない社会調査があることも忘れてはなりません。実際、今回お聴きした発表の中にも、アンケートを使わず、インタビュー等の方が良いデータが取れたと考えられるものもありました。もう一つは対象者の問題です。福岡県立大学の学生にアンケートをするよりも、伊田駅を利用しているお年寄り、田川で飲食店や食料品店等を経営している方、あるいはそういったお店の常連さんの気持ちを調べることの重要性も感じました。これら社会調査の方法や、データ分析の技法については、2年生以降で専門的に学習していくこととなります。そこでの講義内容と今回の調査過程とを照合していけば、より深い学習が可能になるでしょう。調査では、自分たちとは異なる世代、異なる立場の人との交流が重要になってきます。これは、後半のプレ・インターンシップや海外語学実習等の話に繋がります。プレ・インターンシップや海外語学実習の体験として、自分とは違う世代の人、異なる文化を持つ人との関わりで、自分の見聞や知識が広がったというお話が紹介されていました。今回の演習を手がかりに、みなさんがそういった取り組みにも積極的に関わっていくことを期待します。最後に、皆さん本当にお疲れ様でした。

<森脇敦史 准教授>

皆さん、お疲れ様でした。私は、チームひまわりの東日本大震災関連ボランティアに関するコメントと、海外語学実習プログラムに関するコメントを一言述べさせていただきたいと思えます。まず、チームひまわり東日本大震災関連ボランティアについてです。震災というものを

きっかけにして、ボランティアというものに対する注目が非常に高くなっています。ただ、こういったボランティアは、継続的にやっていく必要が今後出てきます。東日本大震災は非常に大きな災害でしたので、今後のボランティアというものも今年、来年だけではなく、さらに場合によっては5年10年といった非常に長いスパンで見えていく必要があります。チームひまわりは今年の9月に現地入りを目指すということですが、全然遅すぎるということはありません。今後ずっと続いていくものになっていきますので、しっかり準備をした上で行くということは非常に重要なことだと思います。継続的に今後もずっとやっていけるような体制作りも必要なので、今回チームを作るということに重点を置いている点はよかったのではないかと思います。ただ、実際にそれを支援の方に活かさないと、手段と目的というものが逆転してしまうということになってしまいかねないので、被災地に対して支援を行うという目的の中で自分達がどういう風な活動をしていくかを常に意識していくことは必要であると感じました。今回は北九州市立大学と協力して行っているということでしたが、これまで活動してきた学生団体等の意見を聞き、成功したチームの経験則を活かすことができるので、現地のニーズがどういうものなのかをそれらの活動団体から得たり、これから実際に行った場合は、きちんと先方の話を聞いた上で必要な支援は何かを考えていくということが必要なのかなと思いました。今後行いたい活動の中で「特産物を販売したい」とありましたが、どんなものがあるか等地元の人と打合せをしながら販売をしていくこと。相手のニーズに寄り添うということも重視していければ、息の長い活動になると思います。次に海外語学実習プログラムについて、ゲイル先生と参加した学生の皆さんからのスピーチがありました。この中に何人かの学生さん達が特に「ホームステイで学ぶものがあつた」とお話しされていたとします。行ってみればなんでもないという経験

が、今後大きな経験になるということ。これは英語だけに限らず、それ以外の場面でも今後色々なことにチャレンジしていくという点で非常に重要な糧になります。また、このことを自分だけのものにするのではなく、海外に行った人同士、行かなかった人にも「自分は不安だったがやってみたら何とかなった」ということを伝えることで、他の人も巻き込んでいければ、実習の成果を皆で共有することができ、非常によいのではないかと思います。私のコメントは以上です。

<永田瞬 講師>

ご紹介いただきました永田でございます。私は、プレ・インターンシップとボランティアサークルについてお話しをさせていただきたいと思います。まず全体的なプレ・インターンシップに関してですが、今就職を巡る状況というのは厳しい状況にあると思います。それは大きいくりで言えば、採用する側が「即戦力」を求めてきているという流れがあると思います。その中で、皆さんのように大学の時に「就業力」を身に付けていってほしいという要請が社会の中ですごく大きくなっています。今回のお話を聞いて、皆さんの特にプレ・インターンシップに関しては、小学校や障害者施設、保育園、ギラヴァンツ北九州、あるいは福祉施設等々と様々な経験をされているということがわかりました。仕事の経験を通じて将来のキャリアに役立ててもらおうというのが、このプログラムの趣旨だと思います。私も話を聴いていて、色々大学生の頃に経験した塾の講師や居酒屋、警備会社の受付等を色々と思い出しました。大学の時にアルバイトとは違うような形で仕事を体験するということの大事な点は、仕事は色々な方との人間関係の中で成り立っているものなので、自分一人ではできないということです。それが一つあると思います。もう一つは、そういった社会の中で、自分が将来大学を卒業した後どういった貢献の仕方ができるか、自分のやりたいこと、考えることをどうやって社会に活かせるのかということを知るということが非常に大事な中身なのではないかと思います。皆さんがプレ・インターンシップ等を通じて経験したことというのは、どういう方向に自分が進んでいくかを決

める過程です。東大の本田由紀という教育社会学者の方が、大学の時に身に付けてもらいたいのは、ゴリゴリの専門性というのではなく、色々な体験をした上で、自分の強みをだす「柔らかな鎧」、「柔らかな専門性」だと言っています。こういった経験は、自分の「柔らかな専門性」を身に付けるのに役立つと思います。これを自分達の経験だけではなく、後輩の皆さん、経験していない友達等にも繋げていって、大学の財産として共有していければいいと思います。ボランティアサークルについては、ボランティアサークル等を通じてやっていったことを、今度は大学の中での学びにも活かしてもらって、大学の中での財産にしていってもらえればと思います。私の方からは以上です。

<森山沾一 教授>

最初から最後まで聴かせていただきました。社会貢献論と演習を私も担当して、演習発表の皆さんは大変良かったし、ボランティアの方々、イギリスに行かれた方々も大変素晴らしい発表だったと思います。それからもう一つ付け加えてコメントしますと、ボランティアと社会貢献は違うのではないかと私達は考えてきました。社会貢献論の授業の中でも考えてきました。どんな風に違うかということ、一言で言えば、社会貢献は永田先生が言われたように柔らかな専門性も含めて専門的なことで社会に貢献できる、地域に貢献できるということ。ボランティアは、ちょっとしたことでも苦しんでいる人がいたら共感ということで色々な形で活動していくということです。つまりは、専門性はあまり問わないのです。イギリスでの研修も病院に行ったり学校に行ったり、こういう専門性を身に付けるような形で文化とともに研修しようというねらいでやっている教育課程です。そのあたりを学生の皆さんにももう少し考えていただいて、そして県立大学としても、皆さんが専門性が身に付いた社会貢献を担っていけるように努力していこうかと思っているところでございます。以上、まとめて代えまして終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

寄せられた感想

<学生から寄せられた感想>

- ・今日のようなグループの発表を聴いて、社会貢献の形は無限に広がっているということを知ることができました。そう思えたのは、発表者一人ひとりが、ちゃんと考えて色んなことを学んだからだと思います。深く学んだからこそ、他の人に伝える意味も大きくなっていくと感じました。
- ・多くの学生が積極的にアクションを起こしていて、私もこれから多くの経験をしたと思いました。
- ・社会貢献とは一つではなく、色々な角度から色々なことができるんだなと思った。自分が貢献演習の中で学んだのはほんの一部だったが、どんな形でも社会貢献に繋がるんだなと思った。講義が終わるから止めるのではなく、これからも何らかの形で社会貢献をしていきたい。人にやらされるのではなく、自分から行動していきたい。
- ・社会貢献で就業力を身に付けることにより、私達の弱みである創造的思考力や自己理解力、コミュニケーション能力、ストレス耐性を高めることができるのだと思いました。本やニュースで取り上げられる世界のことについて、自ら疑問に思い、好奇心を持って、自分の頭で考えることから始めたいと思いました。
- ・自分の力で何か行動を起こして活動できるということが、とても魅力的に感じました。今回のフォーラムで発表した誰もが、自分から行動し、その意欲を十分に活かして自分の成長に繋げているように思いました。自分が体験していない経験についても活動報告を聴くことができ、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・自分に近い人が自分の知らない活動を行い、それを自分のものにしていくということに対して、非常に尊敬の念を抱きました。大学の周りだけで生活している自分の日常を見つめ直し、改めて広い視野を持って様々な活動を行いたいと思いました。
- ・参加させていただき、自分の考えや視野を広げることができました。皆さん様々な活動に取り組んでおられ、私ももっとあらゆることにチャレンジしていこうと思い、本当によい刺激を受けました。このような発表会に参加させていただき有難うございました。
- ・プレ・インターンシップにとっても興味を持ちました。次回から参画していきたいと思いません。
- ・プレ・インターンシップにとっても興味を持ちました。多くの学生に聴いてもらう機会を持てば、もっと参加者が増えると思います。
- ・今回のフォーラムの準備を行うにあたって、今までの活動を振り返るきっかけになりました。また、今後の活動について、広く考える機会ともなり、大変充実した時間になりました。
- ・大学内で行われている様々な活動について、今まで知らなかったことも多く知ることができた。地域に貢献することの重要性を改めて知ることができたので、もっと色々な活動を行ってみたい。
- ・様々な活動を知ることができよかったです。
- ・普段こういった活動を知る機会がないので、大変良い経験になりました。
- ・私も自身の学部について専門性はありますが、まだ自分の意志が固まっておらず、正直、他の分野にとっても興味を抱いていましたが、今回のフォーラムにより、それでも良いのではないかと改めて思いました。自分の夢を追求して様々な分野に触れ、視野が広げられるよう努力をしようと思いました。
- ・様々な活動が大学内で行われていることを知り、活動内容を知ることができた。
- ・とても良い話がいくつか聴けてよかった。
- ・学外での活動を知る機会があるというのはいいことだと思う。
- ・他の学生の様々な活動内容を知ることができました。また報告を行うことだけでなく評価し、次に繋げていくことも大事であるという

ことを学びました。

- ・伊田駅待合室の活動報告の中で、今後についてのアンケートに「わからない」という回答が一番多かったことについて、もっと調べ、本当は学生がどう思っているのかを知ることができたらよいと思った。チームひまわりのチーム作りはとてもよいと思ったし、レクリエーションでなく清掃活動等をしていることが良いと思った。2011年秋から活動をしていると報告していたが、被災地に行くのは3月だけなのか疑問に思った。被災地に行くことは金銭的に難しいと考えていたが、交通費など出ると聞いて、とてもよいと思った。ゲイル先生の日本語が素晴らしかったです。
- ・発表は少し緊張しましたが、意見やお褒めの言葉をいただき、とても実りあるものとなりました。今後の社会貢献の原動力となりそうです。他の方の発表も勉強になり、よい刺激を受けました。
- ・他の人がどのような取り組みをしているかを知るよい機会になりました。また、プレゼンの仕方や、他のグループの話し方を学び、人に成果を伝えるにはどうしたらよいかというのを、身を持って感じました。
- ・色々な分野の話が聴けてよかったと思っています。ただ、話を聴く側が何かしらの組織に入っていて、どちらかというとな発表者同士の報告会になってしまったのがもったいないなと思いました。他の学生にも聴かせる場を設けるとよいと思いました。
- ・自分の考えがまだまだ未熟なので、これまで多くの経験をしてきた先輩方や、それに対する先生方のお話や指導を受けることができ、とてもよいものだったと感じました。
- ・様々な活動の報告を聴いて、今まで全く知らなかった団体についても知ることでよかったです。

<一般の方から寄せられた感想>

- ・大学生の皆さんが充実した学生生活を送っていることに感心すると共に、心から応援したいと思いました。
- ・学生の皆さんの発表がよかったです。体験したことを自信を持って発表する姿に、好感が持てました。
- ・学生の活動や調査結果等が、授業の外で発表されることは、学生にとってもよい経験になると思います。よいアイデアもあったので、アイデアを実現させられるようなルートが必要かと思いました。

社会貢献フォーラム I・II の活動の流れ









就業力向上支援会議

理事長兼学長	名和田新 ¹
副理事長	田中豊司
常務理事兼事務局長	武田清一
教員兼務理事	鬼崎信好 ²
教員兼務理事	安酸史子
人間社会学部長	森山沾一
看護学部長	佐藤香代
附属図書館長	古橋啓介
附属研究所長	松浦賢長
社会貢献・ボランティア支援センター長	小松啓子
全学教務部会長	小松啓子
学生生活支援部会長	小嶋秀幹
就職・国試等支援部会長	中野榮子
経営管理部長	南 巧
学務部長	鬼丸健二

¹議長、²副議長

就業力向上支援プログラム推進会議

人間社会学部人間形成学科教授	小松啓子 ¹
人間社会学部社会福祉学科准教授	村山浩一郎 ²
人間社会学部人間形成学科准教授	岩橋宗哉
人間社会学部一般教育等准教授	Gale Ian Stuart
人間社会学部生涯福祉研究センター准教授	中村晋介
人間社会学部社会福祉学科准教授	本郷秀和
人間社会学部一般教育等准教授	森脇敦史
看護学部臨床看護学系准教授	渡邊智子
人間社会学部社会福祉学科講師	奥村賢一
人間社会学部公共社会学科講師	永田 瞬
看護学部ヘルスプロモーション看護学系講師	三並めぐる
看護学部臨床看護学系助教	浅井 初
人間社会学部社会福祉学科助教	松岡佐智
人間社会学部人間形成学科助手	岡村真理子

¹委員長、²副委員長

社会貢献・ボランティア支援センター運営部会

人間社会学部人間形成学科教授	小松啓子 ¹
人間社会学部社会福祉学科准教授	村山浩一郎 ²
人間社会学部社会福祉学科准教授	本郷秀和
看護学部臨床看護学系准教授	渡邊智子
看護学部ヘルスプロモーション看護学系講師	三並めぐる
看護学部臨床看護学系助教	浅井 初
地域支援員	堀内洋一
社会貢献・ボランティア支援センター専門研究員	原口智子

¹委員長 ²副委員長

就業力向上支援事務局

事務補助員	宮村由貴
インターンシップ受入機関開拓担当者	坂田寿子
社会貢献支援プログラム専門指導員	團野博美

学生スタッフ

阿部 巧	大村和輝	緒方詩織	永井友幸	中田友佳里
平田慎一朗	藤本昂平	森野祥子	山本五月	横尾一徹

(50音順)

社会貢献フォーラムⅠ・Ⅱ「社会貢献を通じて、『将来』を考える」報告書

編 集 就業力向上支援プログラム推進会議

発 行 公立大学法人 福岡県立大学 就業力向上支援事務局

〒825-8585 福岡県田川市大字伊田 4395 番地

TEL 0947-42-1321 (直) FAX 0947-42-1321 (直)

この報告書を無断でコピーまたは他に使用することを禁じます。